

2022年5月8日

創立 150 周年に向けた取り組みについて

千葉県柏市立手賀東小学校
校長 佐和伸明

- 開催日時：2022年11月5日（土） 13:00-19:00 頃
 荒天:順延
- 開催場所：手賀東小学校 運動場
- 内 容：・子供たちの学習発表(野外でプレゼンテーション)
 ・打ち上げ花火(150 発)
 ・保護者・地域による調理(赤飯、豚汁 他)
- 来 賓：柏市長 他

地域と学校に愛着を持ち ICT を駆使して魅力を発信する子

～創立 150 周年記念行事を通して～

1 実施計画に至る経緯

本校は、明治6年3月15日に開校し、今年度(2022年度)で創立150周年を迎える。明治5年に学制が発布された年度内に創立しており、日本で最も古い学校のグループである。

本校の学区は、都心に近い柏市にありながら、学区全体が市街化調整区域に指定されている農業が盛んな地域であり、現存する首都圏内の教会堂としては最古の手賀協会など歴史的意義を有する建造物等も残されている。

そこで、記念行事に向けての子供たちの活動は、教室を飛び出して地域全体を学びの場とし、様々な体験を通して学んだことや考えたことを、1人1台端末を活用して地域や保護者に発信するものとした。発表の場も、体育館に紅白幕を張り来賓のあいさつが多い儀式的なものではなく、野外にプロジェクターとスクリーンを設置し、子供たちを主役として学習成果を発表できるようにする。

当日、保護者には例年行っている「収穫祭」と同様に、子供たちが栽培したもち米や野菜を使って、赤飯や豚汁を用意してもらい、地域の方にふるまいたい。そうはいつでも、学校まで足を運んでくださらない地域の方も多いたことが予想される。記念行事の最後には、150周年と同じ数の花火を打ち上げ、それを見上げることで母校の150周年を祝っていただきたいと考えている。

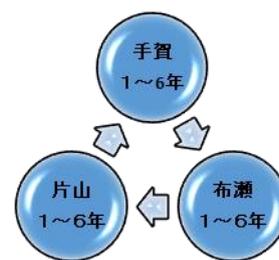
2. 活動内容

- (1) 対象者：1年生～6年生全校児童（70名）
- (2) 教科：総合的な学習の時間と生活科を軸にした教科横断型の学習
- (3) ねらい

- ①【子供にとって】：学校や地域の歴史や特色を学ぶ活動を通して、その良さを見出し、愛着と誇りを持って発展させようとする態度を育てる。
- ②【教師にとって】：教室での一斉伝達型の授業から、地域の専門的な知識や技能を持つ人材や異学年の友達と学び合うなど、子供主体の学びを実現すること。
- ③【地域・学校にとって】：地域の人口は減少している。そのため、本校の学区で生まれてくる子供は各年齢 1 人か 2 人しかいないため、小規模特認校に指定されている。150 周年の機会に地域や学校の魅力を広報することで、地域に人を呼んで活性化を図ったり、学校への転入学者を増やしたりする。

(4) 活動の特色

- ①活動の単位が全校児童であること。しかも、同一学年で内容を変えて活動するのではなく、1年生から6年生を縦割りにした3グループ(1グループ23名程度)で活動を進めていく。
- ②学校をとび出し、地域で学ぶこと。月2回以上全校でフィールドワークをするなど、学校をとび出し地域全体を学びの空間とする。
- ③多様な人材から学ぶこと。縦割りグループのため担当の教師は担任とは限らない。また、地域の農家の方や企業や団体の方など多様な人材から支援を受ける。
- ④学び方が変わる。教師による一斉伝達型の授業から、子供主体の学習へ改革すること。また1人1台端末を活用することで、情報活用能力の育成を図る。



(5) 活動時期および内容

- 4月: 【課題の設定】
 - ①全校児童を縦割りで3つ(布瀬・手賀・片山)のグループに分ける
 - ②農業体験の協力を依頼する(農地の借用、栽培指導)
 - ③児童が発信する Web サイトの開設
 - ④グループごとの学習計画を立てる
- 5月～9月: 【体験活動による情報の収集(農業体験・地域の調べ学習)】

※スローガン: 端末を小脇に抱え、地域を駆け回る子

①学習活動1: 農作物を育てる体験を通して学び・発信する

| 手賀(戸沢・山内・近藤) | 布瀬(野本・谷口) | 片山(丸山・佐藤) |
|-------------------|--|---|
| とうもろこし | ジャンボカボチャ | 落花生 |
| 大山農園 様(栽培全般) | JA ちば東葛 林正裕 様(コンテスト開催・苗提供) 渡会崇 様(土地の提供) 川村太郎 様(実技指導) | 京葉ガス 様(総合支援) 奥手賀ツーリズム 様(学習コーディネイト) 道の駅しょうなん 様(学習支援) 木村ピーナッツ 様(学習支援) 林 弘 様(栽培全般) |
| ・もぎとり体験の企画、運営 | ・コンテスト参加(大きさ・形) | ・道の駅で説明&販売・レシピ開発 |
| 米作り(もち米)→収穫祭でお赤飯に | | |

②学習活動2：地域の魅力を発見し、広報する

| 手賀 | 布瀬 | 片山 |
|--------|-------|-------|
| 手賀教会 他 | 百庚申 他 | 古墳群 他 |

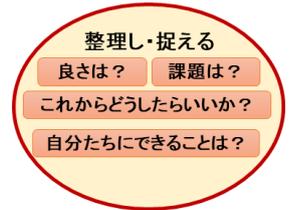
①と②の活動を同時に実施する。(例:畑の作業がない時は、地域調べを実施)

- <ICT 活用> ・インターネットでの調べ学習や活動の記録(画像): 1人1台端末
 ・農作物の生長を撮影:タイムラプスカメラ
 ・文化遺産や畑を上空から撮影:ドローンカメラ

○10月:【情報の整理・分析】

※スローガン: 集めた情報と対話によって、自分の考えを形成する子

- ①農業体験から学んだことを整理し、伝えたいことを明らかにする
- ②地域探検から伝えたい魅力的な物やこと、その理由を整理する
- ③地域を発展させるためにはどうしたらいいか、対話を通して考えを形成する



○11月:【まとめ・表現】

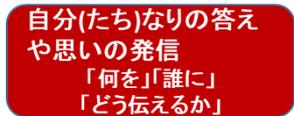
※スローガン: 周りに働きかけ、地域や学校をより良くしようと創造する子

創立150年記念行事で、学んだことを地域の人に発表する

「地域の農業や歴史について」

「これからの地域の在り方を柏市長に提案」 など

<ICT 活用> ・野外にプロジェクターと大型スクリーンを設置してプレゼン



○12月:【振り返り・改善】

学習したことをパンフレットやインターネット等で発信し、多くの人に知ってもらう

<ICT 活用> ・YouTube 等での配信

3 期待される成果

①【子供が変わる】: 下記の力がつくことが期待できる

- 150周年を迎える学校や地域の歴史や特色を学ぶ活動を通して、その良さを見出し、愛着と誇りを持って発展させようとする態度。
- 体験(農業体験・地域の調べ学習・生き物観察)を通して、発見したり考えたりしたことを表現し、ICTも活用して広く伝える力。
- 人や社会(友達・地域・企業や団体)とつながり、様々な考え方に触れながら協働的に学びを深めることができる力。

②【教師が変わる】: 下記のような子供中心の学びのスタイルの効果を実感できる

- 教師による一斉学習→子供主体の学び
- 同一学年による学び→学年を超えた学び
- 学校の教室で学ぶ→地域全部が教室になる

- 教科ごとの学び→教科横断型の学び
- 学校の教師が教える→様々な人材が先生になる
- 教科書通りに指導する→地域の教材から学びを支援する

- ③【地域や学校が変わる】：農業体験や地域探検を通して、地域を良くするために子供たちが考えたことを提案することで、地域の活性化が期待できる。最終的なアウトプットは子供たちが考えることになるが、例として下記のような内容が考えられる。
- ・いちご狩りやキャンプ場などをパンフレットやネットで紹介し、観光に来てもらう
 - ・地域に残る手賀協会や百庚申など歴史めぐりコースを広報する
 - ・新しい農作物や循環型農業など、地域のこれからの在り方を提案する

4 その他

- 打ち上げ花火の実施に向けては、地域の大学生を中心とした団体(ふるさと花火会)の協力によるクラウドファンディングを検討しています。
- 記念行事については、「風船をとぼす」「シャボン玉をとぼす(大正 11 年に野口雨情が本校に来たことから、『シャボン玉』を歌いながらとぼす)」「書道パフォーマンス」等について、地域や保護者からの提案があり、検討中です。
- 児童会(子供たち)は、アルミ缶を集めて現金化し、「150 周年双六(人生ゲームのような)」を作る計画を立てており、さいころの代わりにプログラミングでランダムに数字を出したり、年度のトピックの解説をしたりするプログラム作成を検討しています。
- 本校の1人1台端末活用に関する昨年度の取り組みについては、「創造性を育む「1人1台端末」活用授業 ～G I G A スクール時代の新しい授業モデル～ 監修:佐和伸明 小学館」をご参照ください。

5 本校の情報

〒270-1465 千葉県柏市手賀4 7 9 - 7
TEL : 0 4 - 7 1 9 1 - 9 0 1 4
FAX : 0 4 - 7 1 9 1 - 9 7 1 7

お問い合わせは、校長 佐和までお願いします。
メール : sawa01@kashiwa.ed.jp